2022.5.12
再巻 203 号

あんさんぶる

●2022/6 月例会　No.637

三浦友理枝

ピアノ・リサイタル

Yurie Miura Piano Recitai

≪プログラム≫

プーランク:3 つのノヴェレッテより 第 3 番
フランク:前奏曲、フーガと変奏曲 OP.18
フォーレ:3 つの無言歌 OP.17
フォーレ:舟歌 第 1 番 OP.26
フォーレ:夜想曲 第 4 番 OP.36

♠♤♠♤♠ 休　憩 ♠♤♠♤♠

ドビュッシー:映像 第1集
第1曲　水の反映
第2曲　ラモーを讃えて
第3曲　運動

ドビュッシー:映像第2集
第1曲　葉ずえを渡る鐘の音
第2曲　そして月は廃寺に落ちる
第3曲　金色の魚

ドビュッシー:ピアノのために
第1曲　プレリュード
第2曲　サラバンド
第3曲　トッカータ

2022 年
6 月 10 日（金）

午後 7 時開演　（開場 6 時 30 分）
あわぎんホール　（郷土文化会館）

市民コンサート徳島

☎（088）652-4874　　FAX652-3251
http://concert-tokusima.com または市民コンサート徳島で検索
770-0831　徳島市寺島本町西 2 丁目 16 竹内ビル 3F(郷土文化会館向い)

≪ 曲 目 解 説 ≫

プーランク（1899～1963）／ ３つのノヴェレッテより 第３番

プーランクの作品は、管弦楽曲、室内楽曲から宗教作品まで幅広いが、その３分の１はピアノ曲が占めています。それは、彼が元来ピアニストとしての道を歩んできたことと同時に、彼が 15 歳の時から師事していたリカルド・ビニェスからの強い影響にもよっています。３つの小品の第３曲は「トッカータ」と標題がつけられています。導入部を持った自由なソナチネとみなすことが出来ます。

第３曲「トッカータ」　“きわめて生き生きと”

フランク（1822～1890）／ 前奏曲、フーガと変奏曲 ロ短調 OP.18

フランクは、1858 年に念願の聖クロチルド教会のオルガニストに任命されました。そこには、カヴァイエ・コルという名工の製作した新式の大オルガンが設置されていて、フランクは演奏の腕を磨くと同時にオルガン曲の作曲に意欲的に取り組むようになりました。そして生まれたのが 1826 年に発表した＜6 つの作品集＞です。これを聴いたリストが「新しいバッハ」の出現に熱狂したといわれています。この「前奏曲、フーガと変奏曲ロ短調」は、＜6 つの作品集＞の第３曲でもっともよく知られていて、彼自身によるピアノ用の編曲もあります。前奏曲（アンダンティーノ・カンタービレ、８分の９拍子）は、牧歌風の美しい曲。フーガ（アレグロ・マ・ノントロッポ、４分の３拍子）は、ほとんど転調がありません。変奏曲（アンダンティーノ、８分の９拍子）では前奏曲が再現され、ロ長調で静かに終わります。

フォーレ（1845～1924）／ ３つの無言歌 OP.17

1883 年に出版されたフォーレの３曲の＜無言歌＞は、明らかにメンデルスゾーンのスタイルを採り入れた叙情的で可憐な小品であり、淡々としたロマンチシズムと優美な旋律的魅力をたたえた佳品としてフォーレのこだわりのない姿を物語っているように見えます。この＜無言歌集＞に収められた３曲は、次のようになっています。

第１番変イ短調　アンダンテ・クアジ・アレグレット
第２番イ短調　アレグロ・モルト
第３番変イ短調　アンダンテ・モデラート

フォーレ／ 舟歌 第１番 OP.26

フォーレの舟歌（バルカロール）第１番イ短調　アレグレット・モデラートは、1883 年に作曲されました。歌謡的性格に支配された優美な曲で、メンデルスゾーンの無言歌の影響も感じさせます。

フォーレ／ 夜想曲 第４番 OP.36

フォーレの夜想曲第４番変ホ長調　アンダンテ・モルト・モデラートは、1884 年に作曲されました。この曲は、フォーレの夜想曲の中でも特に人気のある曲の１つであり、夢幻的な美質と、そこから静かに滲み出る憧憬の想いが強くあります。良い意味で、ショパンの様式を採り入れていることも大きな魅力の一つであり、３部形式によっています。

ドビュッシー（1862～1918）／ 映像 第１集

ドビュッシーにとって「映像（イマージュ）」という言葉は重要な意味を持っていました。このピアノのための「映像」第１集、第２集や、管弦楽のための「映像」などの名作が残されています。19 世紀中葉から 20 世紀初めにかけて、ヨーロッパの芸術活動では、音楽に限らず「映像（イマージュ）」という言葉は多くの芸術家にとって大事な合言葉になっていました。ドビュッシーは、「私は音楽と同じように映像を愛しています。」と語っています。このピアノのための「映像」は、それまでのドビュッシーのピアノ音楽における創作活動とは明らかに一線を画するような傑作で、彼のいわゆる「印象主義的作風」を鮮やかに確立した作品と言われています。ドビュッシー自身もこの曲集には、かなりの自信を持っていたようです。

この曲集は、リゾート地のイーストボーンで完成されていますが、そこには愛人エンマ・バルダックが一緒でした。そして、エンマとの間に一人娘のシュウシュウが生まれ、私生活の上でも幸せな時期でした。こうした背景がこの「映像」の充実した内容に反映されていたともいえます。

第１曲「水の反映」　　アンダンティーノ・モルト　変二長調

この曲は「映像」の中でも特によく知られた曲で、「水の反映」というタイトル自体、さらに見事な内容自体、この「映像」全体を象徴的に代表するものと言えます。デリケートに揺れ動くような精妙なアルペジオが、澄んだ水面に反映する光と影を表現しています。

第２曲「ラモーを讃えて」　レント・エ・グラーヴェ　嬰ト短調

「サラバンドの様式で、しかし厳格にではなく」と記されています。
フランス音楽の偉大な先人、ラモー（1683～1764）に対する敬愛を示すものです。厳かで、ゆったりとした響きの中に、如何にもドビュッシーならではの洗練された感覚に裏づけられた“オマージュ”を聴きとることができます。

第３曲「運動」　　アニメ　ハ長調

せわし気なる三連音符の反復が、物の“動き”そのものの抽象的概念を表現をしていると言えます。一種の「ペルペトゥーム・モビーレ（無窮動）」の要素を持った作品です。ドビュッシーの作品中でもかなりヴィルトゥオーゾ的な傾向を強く持っている曲です。

ドビュッシー（1862～1918）／ 映像 第２集

第１集からしばらくして完成された第２集は、やはり３曲から構成されています。前作ではっきりと開拓された新しいピアノ美学の世界は、ここでより一層徹底して追及されています。

第１曲「葉ずえを渡る鐘の音」　　レント　ト短調

ドビュッシーはこの曲を、友人のラロワから伝え聞いたジュラ地方の風習から着想したといいます。通常の手法とは異なる輪郭のぼやけたような和声が、ドビュッシーの音楽ならではの美意識の扉をそっと開いていきます。木の葉をかすかにゆすりながら渡っていくのは、どこからともなく聞こえてくる鐘の音のようです。

第２曲「そして月は、廃寺に落ちる」　　レント　ホ短調

印象的な旋律が、ドビュッシー固有の和声に彩られて、豊かな雰囲気を作り出していきます。“そして月は、廃寺に落ちる”というタイトルは、友人で中国文化の研究家でもあったラロワの提案によるものと言われています。

第３曲「金色の魚」　　嬰ヘ長調

ヴィルトゥオーゾ的要素の濃い作品です。ドビュッシーはこの曲を、流水の中を泳ぎ回る２匹の金色の鯉を描いた日本の漆絵からヒントを得て作曲したといわれています。その自在な音の動きと冴えた色彩感が聴き手に強い印象を与えます。

ドビュッシー／ ピアノのために

「ベルガマスク組曲」などをはじめとする 1880 年から、90 年ごろの初期時代から少し時を置いて生み出された「ピアノのために」は、まだ初期の音楽的情緒を随所に残しながらも、すでに、もう暫くしてから本格的に開花していくドビュッシー独特の語法が、見え隠れしています。全体は、古典音楽的なタイトルを持つ３曲から構成されています。しかし、音楽の内容は決してノスタルジックなものではなく、独特の全音音階的進行など、前向きの意欲の程は明らかです。

第１曲「プレリュード」　“力強く、よいリズムで”と指示されています。

高度なピアノ演奏技法を要求する曲で、軽快な運動感と色彩感とが印象的です。

第２曲「サラバンド」　“優雅な落ち着きと、緩やかさをもって”と指示されています。

この荘重な古典的舞曲の性格が、近代的な和音の中に巧みに生かされています。

第３曲「トッカータ」　この曲集の中でも、特に親しまれています。

古典的な構造を持ち、“スカルラッティ風”に始まります。

演奏家プロフィール

三浦 友理枝（みうら ゆりえ）ピアノ

１９８１年東京生まれ。３歳よりヤマハ音楽教室に入会、１９９３年よりヤマハマスタークラスに在籍。
江口文子、ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、浦壁信二各氏に師事。
０５年英国王立音楽院大学課程を首席で卒業。
０７年同音楽院・修士課程を首席で修了。
クリストファー・エルトン氏に師事。

９５年「第３回ゲッティンゲン国際ショパンコンクール」第１位受賞。これを機にドイツなどでコンサート活動を開始。
９９年「第３回マリエンバート国際ショパンコンクール」最年少で第１位受賞。
０１年「第４７回マリア・カナルス国際音楽コンクール」ピアノ部門第１位、および金メダル、最年少ファイナリスト賞、カルロス・セブロ特別メダル賞を受賞。
０６年９月には「第１５回リーズ国際ピアノコンクール」にて特別賞を受賞した。

０２年ロンドン・ソロイスツ室内オーケストラとの共演でロンドンデビュー。０４年には国際ショパン協会ウィーン本部の招きでリサイタルを行いウィーンデビュー。同年、ロンドン・ソロイスツ室内オーケストラと再共演。これまでに、東京フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、千葉交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団、京都市交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団、シンフォニア・ヴァルソヴィア、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、ロンドン・ソロイスツ室内オーケストラ、カイロ交響楽団など国内外の主要オーケストラと多数共演。１０年東京オペラシティ主催のリサイタルシリーズB→Cに出演、１５年にはフィリアホールにおいて「ラヴェルピアノ作品全曲演奏会」を行うなど注目を浴び続けている。また「ラ・フォル・ジュルネ」、「東京・春・音楽祭」、「仙台クラシックフティバル」、「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭」等の音楽祭にも数多く招かれている。

室内楽の分野でも幅広く活躍しており、オランダ人ヴァイオリニスト、シモーネ・ラムスマとはエルガーのＣＤをリリース（NAXOS)、日本、イギリス、オランダ等でコンサート・ツアーも行った。また、０９年川久賜紀（ヴァイオリン)、遠藤真理（チェロ）とピアノ・トリオを、１５年にはソリスト達で構成される木管アンサンブル「東京六人組」を結成するなど積極的な活動を展開している。

「名曲リサイタル」「ベスト オブ クラシック」「クラシック倶楽部」「みんなのショパン」「きらクラ！」「ららら♪クラシック」などテレビ、ラジオの出演も数多く、１０年にはＦＭ仙台のクラシック番組で１年間パーソナリティを務めた。０５年、エイベックス・クラシックスよりＣＤデビュー。
「ショパン：２４のプレリュード」（２０１０年リリース)、「ミニアチュアーズ」（２０１４年リリース）ショパン：バラード＆スケルツォ」（２０１８年リリース）は「レコード芸術」（音楽之友社）で特選盤に選ばれている。１６年、第２６回新日鉄住金音楽賞〈フレッシュアーティスト賞〉を受賞した。

ぼくは、ずっときいててもいいぐらいでした。

青山　聖樹　オーボエ・リサイタル

2022 年３月 15 日（火）徳島市シビックセンター・さくらホール

★優しく温かな音色で、ゆったりと過ごせました。心にとけこんでいくようでした。素敵なコンサートでした。

★息づかいが間近で見る・聴くことができてよかった。相当の肺活量がいるのだろう。オーボエソロをライブで聴くのは初めて。

★モーツァルトが大好きという青山さんのお話が、一人の演奏家と音楽のつき合い方がにじみ出ていて面白かったです。管楽器は音の出し方にアーティストの個性が出ると思いますが、バッハからモーツァルト、サン＝サーンスと奏でる青山さんの思いが伝わってきてきました。
（金魚の金太郎）

★オーボエの音色のすばらしさを堪能しました。ピアノのやわらかい、なめらかな音との重なり合いもうっとりしました。ピアノ独奏で、開放されたようなショパンの音色もすばらしかったです。お話も楽しかったです。オーボエの黒と金のコントラスト、衣装のやわらかな黒いドレス、素敵でした。（NW）

★澄みわたったオーボエの音色に心が晴れ晴れしました。ピアノの太田さんとのアンサンブルは、とても素敵でした。（マリンブルー　吉田）

★説明をして下さり、よかったです。確かテレビで、ご家族で演奏しておられたのを拝見しました。後ろに子供さんがおられて、大変楽しいご家庭だなと思いました。幸せないいご家庭ですね。

★おしゃべりも興味深く、オーボエの音色が染みました。
（たおのぷーさん）

★話もよかった。オーボエのソロを初めて聴いた。
（アルプス一万尺）

★親子二代で徳島へようこそ。色々な楽器が主役の演奏を聴けるのは、市民コンサートならではと思いました。曲の解説が作曲者の人生を身近に感じさせてくれ、大作曲家にも親しみを感じました。
（たおのぷーさん　田尾　幹司）

★オーボエの美しいトーンとピアノに癒されました。J.S バッハの無伴奏を吹くのが苦しそうだった。多分すごくむずかしいのだろう。（竹内　大介）

★オーボエは世界一演奏するのが難しい楽器と伺っておりますが、まるでクラリネットのように軽やかに演奏されていたので。さすが N 響の首席奏者だと納得しました。息の長さにびっくりしました。（T・K）

★なめらかな音色で感動した。

★やさしい音色に心いやされました。

★シェレンベルガー氏の来日、が再び叶わなかったのは残念だったが, N 響の青山さんのオーボエを聴くことが出来て、大変満足している。３０年以上前にお父様の金昌国氏のフルートを聴いたことがあるので、親子二代の名手の演奏を聴けて嬉しい。（桑原　佳宏）

★オーボエの音が心地よかったです。

★軽やかで、かつ重厚な音色、演奏に魅了されました。ピアノ伴奏もステキ！

★C．P．E．バッハの曲は叙情的であった。
J．S．バッハは、なんか苦しそうに思えた。
伴奏者はスカルラッティにしてもショパンにしてもきっちりと弾けていた。モーツァルトやサン＝サーンスも聴けて安心した。カリヴォダは初めて聴いた。よい曲だと思った。（シロメダカ３３７７）

★サン＝サーンス、モーツァルト、そして初めて聴いたカリヴォダ他、楽しく聴きました。D．スカルラッティ、ショパンのＰ独奏も良かった。（沖津　一陽）

★時には物悲しく、また楽しく美しい音色のオーボエと流れる様に、また弾む様に美しい旋律を奏でるピアノのコラボが心楽しい夜でした。疲れがとれました。お話も良かったです。（コスモス　加藤　孝子）

★青山さんの生音を聴けたのは貴重な機会だった。
意外と編曲ものも自然に、オーボエのための曲のように

聴こえた。　（嵯峨　宜康）

★オーボエの音色、すばらしい。ピアノもとても印象的でした。

★オーボエのコンサートは初めてでしたが、軽やかな音色で良かったです。

★オーボエ、ピアノ共、素晴らしい音色の調べでした。お話も楽しかったです。　（岩本　泰子）

★　オーボエとピアノの音に安らぎて
　３月１５日は静かに過ぎゆく
　キエフの戦禍に思いをはせて
（アルカディア　天野　大）

★バロック、古典派、ロマン派と各時代の音色の違いを楽しませてくれる素晴らしいプログラムとその演奏であった。　（モーツァルト大好きのタクちゃん）

★選曲、演奏者共に素晴らしいコンサートで、感動致しました。　（ヨコタン）

★とてもきれいな音色でした。楽しそうに演奏していました。高音きれいでした。　（ぽこあぽこ　川田　萌永）

★青山さんと太田さんの息がぴったりでとてもきれいでした。オーボエの生演奏を聴く機会はあまりないので嬉しかったです。ピアノもとても美しい音で聞き入りました。　（ぽこあぽこ　永井　小遥）

★オーボエとピアノのあいしょうがすごかったです。ぼくは、ずっときいててもいいぐらいでした。
（ぽこあぽこ　あら川　えんじゅ）

★オーボエをはじめてきいてフルートみたいでかわいい音だなとおもいました。　（ぽこあぽこ　喜田莉桜菜）

★青山さんも太田さんも体をつかってじょうずにえんそうしていてすごいと思いました。ぼくはずっとオーボエの音を聞いていたいです。オーボエの音がよくひびいていました。すぐオーボエの音をおぼえてしまいました。
（ぽこあぽこ　大西　亮輔）

★すごく楽しかったです。　（ぽこあぽこ　吉本　花菜）

★とてもじょうずなえんそうでした。体などでひょうじょうづけがじょうずにできていました。ぼくも、じょうずにえんそうして、ひょうじょうづけもがんばりたいです。
（ぽこあぽこ　荒川　瑞幸）

青山　聖樹　例会　色紙当選者

川田　萌永（ぽこあぽこ）
沖津　一陽さん
桑原　佳宏さん
おめでとうございます。

６月例会の会場でお受け取りください。

３月例会の運営担当

吉田さん（マリンブルー），古田さん
門田さん（みゅーず）
吉本さん・喜田さん（ぽこあぽこ）
太田さん

おつかれさまでした。

バックステージ　　３月例会（青山　聖樹　例会）のインタビュー

青山聖樹さん（オーボエ）と太田紗和子さん（ピアノ）に、例会後インタビューを行いました。その中から、いくつかピックアップして紹介します。

例会の会場の雰囲気はいかがでしたか。

（青山）ファミリアな感じがしてよかったです。こういう雰囲気は大好きです。１列目の女性が呼吸しているのがわかりました。

（大田）あの会場で、このピアノはちょうどよかったです。

青山さんはお父様が有名なフルート奏者（金昌国さん）なのに，フルートを志さなかったのは，なぜなのですか。

（青山）一つには、実は父は、わたしにオーボエをやらせたかったらしいのです。オーケストラの演奏でモーツァルトのオペラを聴いている時に、オーボエのソロがうらやましくて仕方なかったそうです。もう一つは、わたしがフルートをやって、父よりうまくなってはいけないと思ったからです・・・とこれは冗談です。

お二人の協演は，いつからでしょうか。

（青山）太田さんは、妻の友人で以前から知っていましたが、協演は初めてです。彼女は、静かな人のように見えて、本当は「激しい人」なのです。自転車とマラソンをやっていて、わたしの家にやってくるときなど、競輪選手のような格好で、腰のポシェットに楽譜をくるくる丸めて入れてやって来ます。

今回のリサイタルのプログラムは，どのように考えられたのでしょうか。

（青山）コロナ禍で、来日できずにリサイタルが中止になったシェレンベルガーさんが、演奏を予定していた曲とできるだけ重なるように音楽事務所の方と話し合って決めました。だから、サン＝サーンスのソナタが入っているのです。難しい曲なので、普通だったらプログラムに入れなかったと思います。

モーツァルトのソナタは，原曲はヴァイオリンですよね。どうして，この曲を入れたのですか。

（青山）この曲は、楽譜に「フラウト」と書いてぐじゃぐじゃと消してあるのです。だから、わたしは管楽器で弾いてもよいと解釈しています。

例会アンケートを読むお二人

お話が楽しくて、時間が経つのがあっという間でした。
青山さん、太田さん、また徳島においでください。

事務局通信

◉ 3月例会に花を添えて頂きました。

＜花束の紹介＞

蜂須賀桜
シンビジューム
やぶ椿
菜の花

＜アレンジ＞

黄水仙
アスパラガス

（※提供：大崎　訓子さん）

◉ 演奏者に花束を渡して下さった方の紹介

2021年12月例会「広瀬 悦子/ピアノ・リサイタル」（12/3）に、今回も、ぽこあぽこサークルのお友達が渡してくれました。（敬称略）

私は、ピアノの広瀬悦子さんに花束を渡しました。
知っている曲も、新しく知ることが出来た曲もあり、とても楽しかったです。
何より、第九がピアノ・ソロで聴けたことは、とても良い思い出となりました。
素敵な演奏を、ありがとうございました。　**（林　里咲）**

◉ 2022/6月例会（三浦 友理枝/ピアノ・リサイタル 例会時）運営担当の皆さん

ジョバンニ	めだか	タクト	アルプス
ぽこあぽこ	デュオ	ひえ畑	小川ファミリー

個人会員でお名前（性）の頭文字が 「**サ～タ行**」の方、よろしくお願いします。

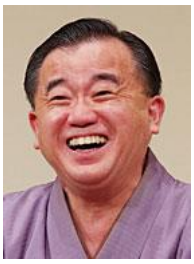
※　運営サークル会・日程：**5/12(木)　19:00～20:30　市民コンサート徳島・事務局にて**
※　毎例会の前に、運営サークル会という会を開いて、当日の運営担当をお願いしています。

◉ 第51回 市民コンサート寄席

≪桂 文我 独演会　第51回公演≫

と　き　：　5月26日（木）　P.M.6：30　開演
ところ　：　あわぎんホール　4F　和室
入場料　：　2,500円

※　出演：桂文我　桂三象　桂笑我



演目	
「開口一番」	桂笑我
「一眼国」	桂文我
「菊江仏壇」	桂文我
＝ 仲入り ＝	
「憧れのカントリーライフ」	桂三象
「落語版／元禄曽我物語」	桂文我

笑う門には 福来る！ ご一緒に笑いましょう!!

市民コンサート徳島
これからの例会
2022 年

各例会会場は
すべて あわぎんホール
（徳島県郷土文化会館）

≪2022／8 月例会　第 638 回≫ 通崎 睦美/木琴・リサイタル　　8/25（木）

あわぎんホール　19：00 開演　（18：30 開場）

～ 木琴日和 in Tokushima ～

☆ ゲスト出演：永田 参男（ギター）

8 月例会には、木琴・マリンバ奏者の通崎睦美さんをお招きします。
６年振り、３回目の来演になります。一回目は、マリンバ者として。二回目の前回は、木琴奏者として楽しいコンサートを聴かせてくれました。
　今回も前回に続いての木琴コンサートです。
題して　♪ 木琴日和 in tokushima　♪

木琴の魅力いっぱいのコンサートです。
　また今回は、ゲストにギタリストの永田参男さんを迎えて、木琴とギターのアンサンブルも披露してくれます
　木琴の音色と、超絶テクニックをお楽しみ下さい！

≪プログラム≫

一　部		二　部	
チャールダッシュ	：モンティ/藤井敬吾編	酒場 1900「タンゴの歴史」より	：ピアソラ
アマリリス	：ギース	懐かしの映画音楽	：永田参男編
ソナタ ～木琴のための	：ピットフィールド（木琴・ソロ）	ユーカリ	：ヴァイル
庭の千草	：アイルランド民謡/野田雅巳編	ラ・クンパルシータ	：ロドリゲス
モーゼ幻想曲	：パガニーニ		他

☆ 2022 年 10 月例会　≪639 回≫
高橋 礼恵　／　ピアノ・リサイタル
～　ベートーヴェン　三大ソナタを弾く　～
「悲愴」「月光」「熱情」
10 月 12 日（水）　19：00～

高橋 礼恵

☆ 2022 年 12 月例会　≪640 回≫
荒井 里桜　／　ヴァイオリン・リサイタル
～　日本音楽コンクール第 1 位、ヴァイオリンの新星登場　～
12 月 13 日（火）　19：00～

荒井 里桜